

2018 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 1 問 世界の自然環境

出題範囲	小地形, 気候, 植生, 土壌, 環境問題
難易度	★★★★☆
所要時間	得意: 8 分 ふう: 10 分 苦手: 12 分
傾向と対策	近年出題され続けている, 世界の自然環境についての大問。世界地図と自然環境の分布を対応させることができれば容易に解くことができる。仮に知らない単語が出てきたとしても, 図や表にヒントがあることが多い大問である。標高は 2 年連続の出題。地図帳で世界の地形の起伏を確認したい。問 5, 問 6 に関連して, 自然災害の発生メカニズムも学習しておきたい。

問 1 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

図中の点の位置にみられる特徴的な地形を把握しているかを問う問題。造山帯の種類を考慮しよう。

- ① 正 A は**パリ盆地**を指す。硬い地層と柔らかい地層が交互に重なって褶曲し、後者が侵食され**ケスタ**を形成している。よって、選択肢は正しい。この地域では太陽光の確保しやすい斜面と水はけのよい土壌を利用して、ワイン生産に使われる**ブドウの栽培**が盛んである。
- ② 誤 B は**ドラケンスバーグ山脈**を指す。**古期造山帯**に属するので活火山は見られない。よって、選択肢は誤り。この一帯ではアフリカで唯一の**西岸海洋性気候(Cfb)**がみられる。
- ③ 正 C は**デカン高原**を指す。連続したマグマ噴出で形成された**溶岩台地**である。よって、選択肢は正しい。綿花栽培に適した黒色土壌で玄武岩質の**レグール**が広がり、古来インドの綿織物業を支えてきた。
- ④ 正 D はチリ南部の**フィヨルド**を指す。フィヨルドは氷河によって侵食された U 字谷が海面下に沈降してできた地形である。よって選択肢は正しい。なお、沖合には寒流の**ペルー海流**が北上しており、暖気と接することで海霧が発生しやすい。

以上より、正解は②である。

問 2 正解は⑥

難易度 ★★★★★

解説

図と表から湖沼を特定する問題。標高と成因の両面から考えよう。

- ア **レマン湖**が該当する。レマン湖は氷河が削った岩屑物からなる**モレーン**が堰き止めてできた**氷河湖**である。また**アルプス山脈**の麓に位置するため、湖面標高が高いことから判断できる。

イ **パトス湖**が該当する。もともと海だった所に砂州が形成されてできた**潟湖**なので、標高は海水面とほぼ同じである。

ウ **死海**が該当する。アフリカ大地溝帯にできた**地溝湖**であるため、標高は低く水深は深い。蒸発量が大きいいため塩分濃度が高く、人もプカプカ浮くことができる。

以上より、死海 - ウ、パトス湖 - イ、レマン湖 - アの組み合わせになる⑥が正解である。

問 3 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

指示された地域の土壌を特定し、その特徴を理解しているかを問う問題。農業と結びつけて解きたい。

- ① テラローシャを指す。ブラジル高原に分布し、玄武岩質なため水はけ良好で、ブラジルの**コーヒー栽培**を支えている。
- ② テラロッサを指す。地中海沿岸地域に分布する弱アルカリ性の土壌。テラローシャとテラロッサは混同しやすいので注意したい。
- ③ ポドゾルを指す。冷帯に分布する**針葉樹林帯**の土壌である。腐食に乏しいのは、低温で微生物の活動がほとんどみられないからである。表層が溶脱され強酸性となるため、農耕地には適さない。
- ④ **チェルノーゼム**を指す。**ウクライナから西・中央シベリア**に及ぶ帯状の地域に分布し、図 1 の F の地域と一致するため、これが正解である。世界有数の作物生産力を誇る弱アルカリ性の土壌であり、小麦のほか**ヒマワリ栽培**を支える。ヒマワリの種は食用油に加え、近年では**バイオ燃料**にも用いられる。

以上より、正解は④である。

問 4 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

図の植生分布と選択肢との矛盾を見つけ出す問題。各選択肢の文章が長いですが、単語に注意して読めば誤りに気づくはずである。

- ① 誤 熱帯林は年中多雨もしくは夏季に多雨となる地域にみられる。よって、選択肢は誤り。「冬季の豊富な降水」に該当する地域は**地中海性気候(Cs)**に限られる。
- ② 正 標高 4,000~5,500m の地域は寒冷であり、湿った空気も上昇してこないので降水量は少ない。そのため図 2 から確認できるように草が広がる。よって、選択肢は正しい。
- ③ 正 図 2 より、西側斜面の標高 2,000~3,000m の地域には低木林が広がっていることがわかる。低木林は期間の短い湿った季節のみに樹木が生長することで形成される。よって、選択肢は正しい。
- ④ 正 西側斜面の標高 2,000m 以下の地域では、沖合を北上する寒流の**ペルー海流**の影響で、地上付近が上空の気温より低温となり、上昇気流が発生しないため、降水量が少なくなって海岸砂漠となる。よって、選択

肢は正しい。海岸砂漠としては、**アタカマ砂漠**と**ナミブ砂漠**を覚えておきたい。それぞれ寒流のペルー海流、**ベンゲラ海流**の影響を受けている。

以上より、正解は①である。

問 5 5 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

サヘルにおける環境問題を認識しているかを問う時事問題。論理的におかしい箇所を見つけ出そう。

- ① 正 サヘルでは雨季の期間によって降水量が左右されるため、年ごとの降水量の変動が大きく、雨季が短い年は干ばつが起こる。よって、選択肢は正しい。
- ② 正 干ばつが発生すると草木は枯れてしまい、もともと草木が生えていた地域も少しずつ砂漠化が進行してしまう。よって、選択肢は正しい。
- ③ 正 砂漠化した土地では農作物の栽培や家畜の飼育が不可能になり、自給自足の社会では生活できず、環境問題によって定住地を失った環境難民が発生する。よって選択肢は正しい。
- ④ 誤 サヘルでは、人口急増に伴う無計画な農地の拡大や家畜の増加によって草原の縮小や砂漠化が進行している。よって、選択肢は誤り。近年は、砂漠化を抑制するために「緑のサヘル」などの NPO によって計画的な農業が徐々に普及しつつある。

以上より、正解は④である。

問 6 6 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

図と文章を参考に、エルニーニョ現象と関連する語を穴埋めする問題。地域から恒常風の種類を特定しよう。

- カ 太平洋東部の赤道付近で海面水温の上昇が生じるのは、太平洋の低緯度地域で東から吹く**貿易風**が弱まることに起因する。このことが、例年は太平洋西部から中部にかけて広がる温かい海面が東部にも移動し、深部からの冷たい海水の湧昇を抑えるからである。よって、カには貿易風が当てはまる。**偏西風**は約 30～65 度の緯度帯に吹き、**エルニーニョ現象**の主たる誘因とはならない。また、いずれの恒常風も地球の**転向力**を受けている。
- キ 図 3 より、南アメリカ北西部から太平洋中部は高温・多雨、北アメリカ南部は低温・多雨になることが読み取れる。よって、両地域とも多雨になるため、キには**洪水**が当てはまる。北アメリカ南部は 8～9 月にも洪水が多発するが、それは**ハリケーン**によるものが多い。

以上より、カ - 貿易風、キ - 洪水の組み合わせになる④が正解である。

(新田一貴, 衛藤健)

2018 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 2 問 資源と産業

出題範囲	農牧業，資源・エネルギー，工業概論，交通，貿易
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：6分 ふう：8分 苦手：9分
傾向と対策	産業分野について，資源や交通，貿易に絡めた問題が出題された。資源の立地や各地の産業の特徴，自動車生産の海外移転など，頻出の重要事項が問われている。基本的な知識を確実におさえることはもちろん重要であるが，図やグラフの読み取り問題は半数の3問出題されており，問題演習を通して思考力を鍛えておくことも大切である。

問 1 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

スマートフォンに関係する資源や技術について，地図を見て世界全体に占める割合と項目名の組み合わせを選ぶ問題。3つの地図を見比べて，それぞれの特徴を読み取ろう。

ア **ボーキサイトの生産量**が該当する。ボーキサイトは赤道付近の熱帯地域で産出する鉱物である。オーストラリア，中国に加えて，**インドネシア，ギニア**など熱帯の**赤道付近の国**や**インド**が上位にあることから判断できる。

イ **国際特許出願件数**が該当する。特許を多くもっている国は研究が進んでいる先進国である。**アメリカ合衆国，日本，ドイツ**といった**技術大国**が大きな割合を占めている。

ウ **リチウムの生産量**が該当する。オーストラリアのほか，**チリ，アルゼンチン**が上位を占めている。これはやや難易度が高いので，ア，イから消去法で解いてもよい。

以上より，国際特許出願件数 - イ，ボーキサイトの生産量 - ア，リチウムの生産量 - ウの組み合わせになる③が正解である。

問 2 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

半導体関連工場の立地特性に関する問題。地理的知識があいまいでも問題文から推測しよう。

カ 空欄の直前で，半導体関連の工場が集中する九州地方は**東京圏に比べて人件費が安価**であることが指摘されている。安価な労働力が得られる地域では労働力指向型工業が発達しやすく，半導体生産は**労働力指向型**の立地を示しているといえる。逆に，市場指向型の工業は大市場をもつ東京などの大都市周辺に立地するため，

この問題ではふさわしくない。

キ 半導体は**軽量小型**で**高付加価値**な製品である。よって、生産費に占める輸送費の割合は**小さい**といえる。空欄の直前で半導体は軽量であると触れていることから推測できるだろう。輸送費が比較的高い空輸であつても軽量、高付加価値であるから、輸送費の割合は小さくなる点に注意しよう。

以上より、カ - 労働指向型、キ - 小さいになる組み合わせの④が正解である。

問 3 9 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

産業地域の特徴を述べた文章から、ルールに当てはまるものを選択する問題。あらかじめ各地方の工業の特徴に関する知識が要求される。

- ① **サードイタリア**(**第三のイタリア**)が該当する。繊維製品、皮製品、家具などの**多品種少量生産**が有名である。中小企業などにより多様な地場産業が集積している。
- ② **シリコンバレー**が該当する。アップルやグーグルなど、半導体やインターネット関連の企業が集積している。
- ③ **ルール**が該当する。ヨーロッパ最大級の**ルール炭田**があることから鉄鋼業が発達し、**ルール工業地帯**が形成された。第二次世界大戦後に**公害がクローズアップ**されるようになり、その後は**環境産業が発展**することになった。
- ④ **シンガポール**が該当する。**輸出加工区**の設置により工業化を成し遂げた。**工業**、**金融業**が盛んで、貿易依存度が高いことも特徴である。

以上より、正解は③である。

問 4 10 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

自動車の生産台数の変化に関する問題。

- ① **日本**が該当する。工場の海外移転が進んでいるため、国内の生産台数は減少している。
- ② **アジア**(**日本を除く**)が該当する。この地域には中国やASEAN 諸国など、**経済発展が著しい国**が多い。**低賃金労働力**が豊富であり、**工業化の進展**や**市場拡大**に伴って国外からの工場移転が急速に進められている。
- ③ **北アメリカ**が該当する。**貿易摩擦の軽減**を目的に**プラザ合意**後から現地生産が進められており、2000 年時点でも生産台数が多かった。現在市場はほとんど拡大しておらず、生産台数はほぼ横ばいである。
- ④ **中央・南アメリカ**が該当する。市場規模は大きくなく、現地生産はあまり行われていない。近年では賃金が安いアルゼンチンやブラジルなどで**北米向けの自動車生産**が行われており、生産台数が増加している。

以上より、正解は②である。

問5 11 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

科学技術の進展による農業の変化について、適当でない内容を含む選択肢を答える問題。

- ① 誤 遺伝子組み換え作物はアメリカ合衆国、ブラジル、アルゼンチンといった、**企業的農業**が盛んな国で導入が進められている。
- ② 正 **アグリビジネス企業**とよばれる多国籍企業が農産物の研究や生産、流通など、農業関連のさまざまな領域で事業を展開しており、化学肥料、農薬、農業機械、遺伝子組み換えによる新品種の開発などが行われている。
- ③ 正 日本では比較的大きい農地面積を有する農家では機械化が進む一方で、機械化が難しい**小規模農家**も多く、主業農家の割合は年々低下している。
- ④ 正 南米では牧畜に適した条件がそろっていたが、ヨーロッパから遠く離れているため大規模市場とつながることができずにいた。しかし、19世紀末に**冷凍船**が発明されたことにより、**乳製品や肉類を新鮮なまま長距離輸送することが可能**となり、南米での畜産業が盛んになった。

以上より、正解は①である。

問6 12 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

さまざまなサービス業の事務所立地に関する問題。事務所が集中している地域に注目して考えよう。

- サ **道路貨物運送業**が該当する。**三大都市圏**を中心としながらも全国に広がっている。特に**太平洋ベルト沿いに集中**する傾向があるが、これは工業製品の輸送が盛んであることによるものである。
- シ **農業関連サービス業**が該当する。農業の盛んな**北海道・東北・九州**などに集中している。
- ス **情報関連サービス業**が該当する。市場の情報や流行を重視する**市場指向型工業**なので、**三大都市圏**に事業所が集中しやすい。なお、情報関連サービス業は、特に東京都が占める割合が突出して高く、東京一極集中型になっている。

以上より、情報関連サービス業 - ス、道路貨物運送業 - サ、農業関連サービス業 - シの組み合わせになる⑤が正解である。

(藤田太郎, 新田一貴)

2018 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 3 問 生活文化と都市

出題範囲	人口, 都市, 生活・文化
難易度	★★☆☆☆
所要時間	得意: 7 分 ふう: 9 分 苦手: 10 分
傾向と対策	生活文化と都市についての出題であった。生活文化では、宗教や気候などを複合的に考察する力が問われ、都市については経済成長の程度や人口についても吟味する必要があったが、いずれも系統地理の基本的な知識をベースに解答できる問題が多かった。各分野に関して正しい把握をできているかどうか、教科書に立ち戻って確認しておこう。

問 1 13 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

ヨーロッパの国々における宗教別人口についての問題。各国で信仰されている宗教のおもな特徴をおさえていれば正解できただろう。

- ① カトリックの人口が過半数を占めるが、イスラームの割合も比較的高いことから、フランスが当てはまる。フランスは歴史的にカトリックの国であり、カトリックの人口割合が高い。一方、近年イスラーム系の移民が増加しており、ムスリム固有のスカーフをめぐる問題が生じるなど、文化的な摩擦が起こっている。
- ② プロテスタントの割合が比較的高いことからドイツであると判断でき、これが正解である。ルターの宗教改革が、ドイツにおいて活発に行われたという経緯がある。ドイツでプロテスタントの割合が高いことは基本的な知識なので、確実にしておこう。
- ③ 正教が 9 割近くを占めていることに着目すると、ギリシャ正教が盛んに信仰されているギリシャが当てはまるとわかる。
- ④ カトリックの割合が約 9 割を占めることから、ポーランドが当てはまる。ポーランドは、スラブ系のポーランド人が居住しているにも関わらず、主にラテン系民族から信仰を集めているカトリックの信者が多い。これはぜひ覚えておきたい事項である。

以上より、正解は②である。

問 2 14 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

衣服の特徴に注目しながら、気候・風土との関連性を考える問題。熱帯地域、乾燥地域、高山地域の各地域に

おける衣服がもっている機能性や素材の特徴を考えてみよう。

- ア 「四角形の布の中央に頭の通る穴をあけた外衣」とあることから、**南アメリカのアンデス高地**で伝統的に着られているポンチョであるとわかる。アンデス高山地域では、昼間に日射量が多く夜間には放射冷却による気温低下が著しいことから、気温の日較差が大きいため、激しい寒暖差から身を守るために「撥水性・断熱性に優れた毛織物」を用いているのである。
- イ 「放熱性や吸水性に優れた麻や綿」を用い、「スリット」という切れ目があり熱を逃がしやすい衣服を着ることから、**東南アジアの熱帯地域**であるとわかる。具体的なものとして、ベトナムのアオザイなどを想起できると、解答しやすかっただろう。
- ウ 全身を綿の布で覆うことで「強い日差しから身を守る」という記述があるので、上昇気流が生じにくく雲が少ないために直射日光の激しい**西アジアの乾燥地域**であるとわかる。また、「頭部を覆う布」というのは、西アジアのイスラーム地域に特有のスカーフのことを指すとも考えられる。

以上より、ア - 南アメリカの高山地域、イ - 東南アジアの熱帯地域、ウ - 西アジアの乾燥地域となる組み合わせの④が正解である。

問 3 15 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

マレーシアにおける近年の政策についての問題。政策やそれに関わる民族構成について、正しく特徴をおさえておこう。

- カ 雇用や教育の面でマレー系住民を優遇する政策とは、1971年に始まった**ブミプトラ政策**のことである。もう一方の選択肢の**ルックイースト政策**とは、東アジアの先進国である日本や韓国をモデルとして自国の近代化・経済成長を図るべく、マレーシアで1981年からとられてきた政策である。
- キ ブミプトラ政策が行われる前は、マレーシア国内において、経済的に豊かである**中国系住民**に比べてマレー系住民が経済的・社会的に劣っているという格差が生じていた。この格差を是正するために、ブミプトラ政策が行われたのである。

以上より、カ - ブミプトラ、キ - 中国となる組み合わせの②が正解である。

問 4 16 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

首位都市の人口割合と都市人口率について考える問題。各国の経済発展状況に留意しながら解答を導いていこう。

まず、都市人口率と経済状況との関連性についてみてみよう。一般に、**都市人口率は先進国において高く、発展途上国において低い**。これは、工業化・経済発展によって産業の中心が第一次産業から第三次産業へと転換す

るにつれて、農村から都市に人口移動が起こるからである。したがって、都市人口率の高い②、④が先進国のイタリアまたはカナダに該当し、都市人口率の低い①、③が発展途上国のインドまたはバングラデシュに該当する。

次に、インドとバングラデシュがそれぞれ①、③のどちらに該当するかについて、首位都市の人口割合に注目しながら考えていこう。インドは総人口が 13 億人を超える人口大国であるが、1 つの都市に住める人口には限りがあるため、各都市の人口が総人口に占める割合は高くない。したがって、総人口に占める首位都市の人口割合も低くなる。よって、インドは①に該当し、バングラデシュは③が当てはまるため、これが正解である。

ちなみに、②と④では②がイタリア、④がカナダであるが、この判別は難易度が高い。イタリアの方が南部における農地としての土地利用割合が高く農村人口率が高い（＝都市人口率が低い）と考えたり、イタリアの総人口がカナダの 2 倍ほどであることから 1 つの首位都市に居住する人口の割合はあまり高くないと考えたりすることはできる。しかし、先述したように、この判別は難しいのでできなくてもよい。

以上より、正解は③である。

問 5 17 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

旧城下町に当たる都市において、各地点の特徴を考察する問題。図と凡例をよく見ながら、選択肢の文章を 1 つひとつ吟味していこう。

- ① 1970 年代以降という比較的近年に開発された住宅地であることから、駅や国道からやや離れており開発が遅れていたであろう A が当てはまる。地価が安く広い用地を確保できたため、開発の余地の大きかった地域である。また、道路も直交路状に整備されており、近年になって開発が進んだことがうかがえる。
- ② 図で示された「江戸時代の町人地」にある B が該当する。また、「城下町の雰囲気醸し出す景観整備が行われている」と書かれており、B が唯一「城下町区域」内に含まれていることとも整合性が取れている。
- ③ 近代以降に発展し栄えていたことから、近代から発展してきたと思われる駅近くの C が該当し、これが正解である。「閉店している店舗もある」という記述から、近年のモータリゼーションの進行に伴い鉄道利用者が減ったことでシャッター通り商店街となっている地域も存在することが読み取れる。
- ④ 「自動車交通が便利」であり「ロードサイド型の店舗が立ち並んでいる」ことから、図の国道沿いに位置する D が該当する。

以上より、正解は③である。

問 6 18 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

都心、都市の郊外、都市圏の外側における年齢階級別人口構成の特徴を考える問題。各地域に居住する人口の特徴をおさえておこう。

- サ 30～40代という親世代の人口、そしてその子どもに当たる年少人口の割合がともに高いので、子どもをもつ世帯の住宅地として利用されている**大都市圏の郊外**が該当する。よって、Yが当てはまる。
- シ 老年人口率が高く、一方で年少人口の割合が低いことから、少子高齢化の進行が著しい**大都市圏の外側**が該当する。よって、Zが当てはまる。
- ス 20～30代という若年の生産年齢人口の割合が突出して高いので、オフィスが集積し単身居住者の多い**大都市圏の都心**が該当する。よって、Xが当てはまる。
- 以上より、サ - Y、シ - Z、ス - Xの組み合わせとなる④が正解である。

(伊藤麻祐, 衛藤健)

2018 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 4 問 西アジア

出題範囲	大地形, 西アジアの農業, 西アジアの工業, 宗教, 国家, 西アジア地誌
難易度	★★★★☆
所要時間	得意: 8 分 ふう: 10 分 苦手: 12 分
傾向と対策	西アジア地域に関する大問である。西アジア地域はイスラーム教徒が多いという点で共通するものの、各国でさまざまな違いが存在している。本大問ではその違いを理解できているかが問われていた。石油の生産量や発展状況, 民族問題, 対外政策は, 西アジアを理解するための重要な事項である。復習でこれら事項をしっかりと理解してほしい。

問 1 19 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

最も標高の高い地点を答える問題。標高は、地図帳で色分けして表されている。世界地図を立体的に捉えているかどうかで、差がついたろう。

- ア アラビア半島の中央部に位置する。アラビア半島は**安定陸塊**に属し、標高は低い。
- イ イラクに位置する。**ティグリス川**、**ユーフラテス川**に挟まれた沖積平野であり、標高は低い。
- ウ **イラン高原**、**ザグロス山脈**に位置する。標高 4,000m を超える地域もあるが、ヒマラヤ山脈に近いエよりは低い。
- エ パキスタン北部からアフガニスタン北東部を走る**ヒンドークシ山脈**に位置する。世界最高峰のエベレストが属する**ヒマラヤ山脈**と近く、標高 7,000m を超える地域もある。よって、最も標高が高い。

以上より、正解は④である。

問 2 20 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

農牧業に関する文について誤りを含むものを選ぶ問題。サウジアラビアのセンターピボットは見落としやすいので、注意してほしい。

- ① 正 A 地域は地中海性気候に属しており、**地中海式農業**が行われている。
- ② 正 B 地域の属するサウジアラビアは大半が砂漠気候に属しており、大規模な灌漑施設などないように思われるが、これは正文である。サウジアラビアでは、オイルマネーをもとに**センターピボット**が導入されており、地下水を利用した大規模な小麦、野菜の栽培が行われている。

- ③ 誤 C 地域ではオアシス農業は行われているが、コーヒーの栽培は盛んではない。コーヒーの生育は、気温が高く降水量が多い所が適しており、おもに熱帯地域で栽培されている。
- ④ 正 標高が高く降水量も少ないアフガニスタンでは遊牧が広く行われており、乳製品・羊毛の生産が多い。以上より、正解は③である。

問 3 21 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

各国の宗教別人口割合から国を判断する問題。アラブ首長国連邦内のヒンドゥー教徒に着目できるかがカギであった。

- ① 国民のほぼ 100%がムスリム(イスラム教徒)である。これはイランである。イランは 1979 年のイラン革命以降、政教一致の厳格な政治が行われており、他教徒はほとんどいない。なお、イランでは世界的には少数派であるシーア派のムスリムが多い。
- ② ムスリムが多いがキリスト教徒、ヒンドゥー教徒も一定数いる。これはアラブ首長国連邦である。アラブ首長国連邦はドバイを中心に、オイルマネーを使った大規模な開発が行われている(世界一の高さ〈2015 年現在〉を誇る超高層ビル、ブルジュ・ハリファの建設はその一例である)。しかしながら、アラブ首長国連邦はもともと人口が少ない。そのため、開発・建設に必要な労働力を出稼ぎ労働者で補っている。特にインドやフィリピンからの流入が多く、ヒンドゥー教徒やキリスト教徒が一定数いるのはこのためである。
- ③ ムスリムが多数派だが、キリスト教徒も多い。これはレバノンである。レバノンではカトリックの一派であるマロン派キリスト教が信仰されている。なお、1975 年に始まったレバノン内戦は、このマロン派キリスト教徒とムスリム(アラブ人)との内戦である。
- ④ 国民の多くがユダヤ教徒である。これはイスラエルである。イスラエルは第二次世界大戦後のパレスチナ分割決議をもとに建設されたユダヤ人の国家である。なお、この決議の時点ではイスラエルの領域にもムスリム(アラブ人)が多く居住していた。しかしながら、中東戦争によるアラブ人の難民の発生、ユダヤ人の入植拡大によってアラブ人の割合は小さくなっている。

以上より、正解は②である。

問 4 22 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

階級区分図を見て、各指標を判断する問題。サウジアラビアやイエメンなど、特徴的な国に注目して解いていこう。

- ク サウジアラビアが中位になっている。サウジアラビアは石油の大輸出国であり、人口 1 人当たり GNI、輸出額に占める石油・石油製品の割合が低位、中位であるとは考えにくい。よって、消去法からクは GDP に占

める農林水産業の割合と判断できるだろう。農林水産業の割合は発展途上国で高くなる傾向があり、紛争などで発展が遅れたアフガニスタンやイエメンで高位になっていることから導ける。

カ イエメンやイランが低位になっており、トルコは中位になっている。これは人口1人当たりGNIである。先に述べたようにイエメンは発展途上国であり、また、イランは石油収入はあるが人口も多く、それぞれの国の1人当たりGNIは低くなっている。なお、トルコは石油生産量が少ないため、トルコが中位となる力は、輸出額に占める石油・石油製品の割合ではないという推測からも導ける。

キ アラビア半島で高位の国が多い。これは輸出額に占める石油・石油製品の割合である。石油はアラビア半島に偏在しており、トルコやアフガニスタンなどでは生産量は少ない。

以上より、GDPに占める農林水産業の割合 - ク、人口1人当たりGNI - カ、輸出額に占める石油・石油製品割合 - キの組み合わせとなる⑤が正解である。

問5 23 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

各国の観光に関する問題。航空便数でトルコとサウジアラビアを判別できるかがカギであった。

- ① 外国からの年間訪問者数が多く、日本からの直行航空便数も多い。これはトルコである。トルコは、ほかの選択肢の国より交通インフラが整っていること、観光資源となる歴史遺産が多くあること、ヨーロッパの先進国と比較的近いことなどが影響し、外国人観光客が多くなっている。また②のサウジアラビアと違って、非ムスリムも旅行しやすい国である。
- ② 外国からの年間訪問者数は多いが日本からの直行航空便数はない。これはサウジアラビアである。サウジアラビアはイスラーム教の聖地、メッカ・メディナを有している。ムスリムは一生に一度メッカへ巡礼することが求められているため、外国からの訪問者数は多くなっている。一方で異教徒の入国には厳しい制限があり、非ムスリムの日本人がサウジアラビアを訪れることは難しい。そのため直行航空便はない。
- ③ 日本からの直行航空便はあるが、外国からの年間訪問者数は少ない。④との比較により③はカタールだとわかる。なお、乗り継ぎでよく使われるハブ空港であるため、日本からの直行便が多くなっている。
- ④ 外国からの年間訪問者数が少なく、日本からの直行航空便もない。これはイラクである。イラク戦争やテロ組織の台頭により治安が悪く、観光で訪れることは難しい。そのため日本からの直行航空便はない。

以上より、①が正解である。

問6 24 正解は⑤

難易度 ★★☆☆☆

解説

中東地域の紛争に関する問題。中東地域では多くの紛争が起きている。混同しないよう、きちんと整理して覚えよう。

- サ Z のアフガニスタンが該当する。アフガニスタンはタリバン政権時代、テロ組織アルカイダとその指導者ウサマ＝ビンラディンをかくまっていたため、引き渡しを求めるアメリカ合衆国により攻撃を受けた（アフガニスタン紛争）。
- シ X のキプロスが該当する。現在でも北部は北キプロス・トルコ共和国、南部はキプロス共和国として独立を宣言しており、分裂している。なお、北キプロス・トルコ共和国はトルコ共和国以外の国からの国家承認を受けていない。
- ス Y のクウェートが該当する。クウェートは 1990 年、フセイン大統領率いる隣国イラクの侵攻を受けた（湾岸戦争）。その後、アメリカ合衆国を中心とした多国籍軍がイラクを攻撃し、戦争は激化した。
- 以上より、サ - Z、シ - X、ス - Y の組み合わせとなる⑤が正解である。

(石川卓郁, 衛藤健)

2018年度 センター試験 本試験 地理B

第5問 北欧地誌

出題範囲	気候，海流，資源・エネルギー，工業概論，人種，言語，民族，生活・文化，その他の社会問題，ヨーロッパ地誌
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：7分 ふつう：8分 苦手：10分
傾向と対策	北欧3カ国についての大問。難易度はそれほど高くはないが，内容の読み取りに多少時間がかかる問題が多かった。問題で引用されている図やデータをうまく整理して活用できたかどうかで解く時間や正答率に差が出ただろう。また，問4はアニメーションをテーマにした問題であり，地理以外の科目とも融合した知識が問われた。

問1 25 正解は⑥

難易度 ★★★★★

解説

北欧3カ国の気温と標高の特徴から国を選ぶ問題。気候と標高の両方の特徴をもとに解いていこう。

まず，気候の特徴から考えてみる。暖流である**北大西洋海流**上の暖かい大気が**偏西風**によりもたらされるため，大西洋沿岸に位置する**ノルウェー**は**高緯度のわりに温暖**である。よって，最寒月の月平均気温が高い**ウ**がノルウェーとわかる。

次に標高を見てみよう。アとイを比較すると，アはイより標高の低い割合が高い。**ノルウェーとスウェーデンの国境付近にはスカンディナヴィア山脈が連なっている**ので，標高が相対的に高い**イ**がスウェーデン，標高の低い**ア**がフィンランドと考えられる。なお，ノルウェーのもう1つの判別材料として，国土の大部分がスカンディナヴィア山脈となっていることも考えられる。

以上より，ア - フィンランド，イ - スウェーデン，ウ - ノルウェーの組み合わせになる**⑥**が正解である。

問2 26 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

北欧3カ国の発電のエネルギー源の割合に関する問題。知識から解くのが理想だが，知らなかった場合も各国の地理的特徴から導き出すことが可能である。

カ **スウェーデン**で**割合が大きい**ことから原子力とわかる。スウェーデンは原子力発電と水力発電の割合が大きいことで有名だが，この知識がなかった場合，火力・水力・原子力発電を比べたときに，**北海油田**に近く**スカンディナヴィア山脈**が連なるノルウェーで導入されていない可能性があるのは原子力発電であるとい

うことから判断できる。

- キ ノルウェーで割合が大きいことから水力とわかる。問 1 の解説にもあるように、ノルウェーは北大西洋海流の影響で降水量が多く、雪解け水も豊富に得られる。さらに、国土の大半をスカンディナヴィア山脈が占めるため、ダム建設に向いているのだ。ノルウェーでは、水力発電によって生み出された豊富な電力を使用したアルミ精錬などが盛んに行われている。この知識がなくても、スカンディナヴィア山脈の広がるノルウェーやスウェーデンで割合が大きく、3カ国すべてで行われていることから水力発電としたい。
- ク フィンランドで割合が大きい。しかし、フィンランドは火力発電の割合が大きいことは必須の知識ではないため、カ・キから消去法で求めてもよい。北海油田の広がるノルウェーでエネルギー源の割合が 0 でなく、他の 2カ国ではある程度行われていることから、地理的制約の少ない火力発電を選ぶことも可能だが少々難しいだろう。

以上より、カ - 原子力、キ - 水力、ク - 火力の組み合わせになる⑤が正解である。

問 3 27 正解は⑥

難易度 ★★☆☆☆

解説

輸出の品目別割合や上位の輸出相手国から国名の組み合わせを判別する問題。必要な情報を整理しながら解いていこう。

まず、図 4 を見てみよう。サ・シと比べ、スでは原材料と燃料の割合が高いことがわかる。ここから、スは北海油田の開発を行っているノルウェーとわかる。なお、表 1 においてイギリスへの輸出額の割合が大きいことから、イギリスとの地理的距離の近いノルウェーだと判断できる。

次にサとシの判別のため、表 1 を見てみよう。サは第 3 位がロシアであることから地理的にロシアに近いフィンランドとわかる。シは第 1 位がノルウェー、第 3 位がイギリスであることから、ノルウェーの隣国であり、フィンランドと比べてイギリスにも近いスウェーデンとわかる。

以上より、サ - フィンランド、シ - スウェーデン、ス - ノルウェーの組み合わせになる⑥が正解である。

問 4 28 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

北欧の文化や言語から国名を判別する問題。アニメのモチーフ・キャラクターや言語の共通性をもとに判断する問題であったと考えられるが、地理的知識からの判定が難しかった。

まず、アニメーションについて考える。チの「小さなバイキングビッケ」は絵や題名から、バイキングに関係するアニメーションと考えられる。バイキングは、8 世紀から 11 世紀にかけて、スカンディナヴィア半島やデンマークを拠点に活動していた北方ゲルマン民族の総称であることから、チはスカンディナヴィア半島に位置するノルウェーとわかる。タの「ムーミン」の舞台はフィンランドの森であり、フィンランドのアニメーションと

わかるが、チから消去法としてもよい。これは世界史的な知識を必要とする問題で、地理的知識から導くのは難しかった。

次に言語について考える。スウェーデン語やノルウェー語がインド・ヨーロッパ語族に属するのに対し、フィンランド語はウラル語族に属する。このことから、問題文に挙げられているスウェーデン語に近い A がノルウェー語、スウェーデン語や A と特徴が異なる B がフィンランド語とわかる。

以上より、アニメーション - タ, 言語 - B の組み合わせになる②が正解である。

問 5 29 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

北欧 3 カ国の社会保障について考える問題。北欧の社会保障の特徴はしっかり覚えておきたい。

北欧 3 カ国は高福祉・高負担として知られる。これらの国では早くに少子高齢化が進行したため、税率を高くし、育児や社会保障に関する施策を充実させた。その結果、近年では少子化傾向が緩和されつつあるが、一方で高負担による勤労意欲の低下や高所得労働者の流出などが懸念されている。以上から、3 カ国が属する象限は GDP に対する公的社会支出、GNI に対する租税負担率の双方が OECD の平均に比べて高い②とわかる。

以上より、正解は②である。

(藤田太郎, 柿沼麻衣花)

2018 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 6 問 岐阜県高山市の地域調査

出題範囲	気候、植生、人口、村落、生活・文化、地形図、日本地誌
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：7分 ふつう：8分 苦手：10分
傾向と対策	2016年に映画の舞台となり話題になった岐阜県高山市についての地域調査問題であった。問題はどれも平均的な難易度で、特別な知識をもち合わせていなくても、地理的思考、論理的考察から正解が導けるものが多かった。地域調査の問題では大問の最初の地図に問題を解く情報が載っていることが多いので、迷ったときは最初の地図に立ち返る習慣をつけるとよいだろう。

問 1 30 正解は⑥

難易度 ★★★★★

解説

気温の年較差、冬季の日照時間をもとに都市名を判断する問題。2段階に分けて解いていく。

まず、冬季の日照時間に注目しよう。表 1 より、アの冬季の日照時間が他の 2 つに比べて長いことがわかる。冬季の日本海側は、北西季節風による降雪の影響で日照時間は少ない。また中部地方の山間部も日本アルプスが存在するため、降雪が多く日照時間は短い。一方、太平洋側は日本アルプスを越え乾燥した北西季節風が卓越するため、冬季の降水量は少なく日照時間が長い。よって、アは太平洋側に位置する浜松市となる。

次に、気温の年較差に注目しよう。気温の年較差は内陸部に行くほど大きくなる。3都市の中ではウが最も気温の年較差が大きい。よって、ウは内陸部に位置する高山市が該当する。ちなみに、気温の年較差を決める要素としては隔海度と緯度の高さがあるが、日本国内の地点を比べる問題では緯度ではなく隔海度に注目しよう。これは、日本国内の比較では緯度差が小さいためである。

以上より、高山市 - ウ、富山市 - イ、浜松市 - アの組み合わせになる⑥が正解である。

問 2 31 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

統計データを用いた主題図から、文章の正誤を判断する問題。丁寧に文章を読んでいこう。

- ① 正 標高段彩図を見ると、周囲に比べ高山市の中心部のみ標高が低くなっており、高山市中心部が盆地に位置することがわかる。また人口密度の図から、人口密度は中心部で高位となっている。
- ② 正 中心部から離れた東西の地域は、標高段彩図から標高が高いことが確認でき、老年人口割合の図から老年人口割合も高位となっていることがわかる。地方の中心部から離れた地域は交通や買い物の面で不便が多

いため、人口流出が激しく、少子高齢化が進んでいる。

- ③ 誤 下線部の手前の平均世帯人員数が低位であることと、下線部の核家族世帯や単身世帯の割合が低いことは矛盾する。よってこの文章は適当でない。中心部は生活の利便性がよい一方、地価が高く広い土地を手に入りにくいため、単身世帯などが多くなり、平均世帯人員数は少なくなる傾向にある。
- ④ 正 人口密度の図から縁辺部の人口密度が低いこと、平均世帯人員数の図から縁辺部で平均世帯人員数が低いことが確認できる。山間部に位置する縁辺部は生活の利便性が悪く過疎化が進んでいると考えられる。よって、若年層の流出や高齢者の死亡に伴う世帯人員の減少が生じていると考えられる。

以上より、正解は③である。

問 3 32 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

会話文の内容から空欄に当てはまる語句の組み合わせを選ぶ問題。会話文中のキーワードに注目しよう。

- カ 職員の「交通網の整備される以前には、近郊の農家にとって朝市は農産物を販売する重要な場所でした」という発言から、交通網の整備以前は、朝市での近隣住民への農産物の発売が中心で、域内消費の割合が高かったとわかる。さらに、「当時は、大都市から離れていた」という発言からも農産物を域外に流通させることは難しいことが考えられるため、域内消費が中心であったとわかる。
- キ 職員の「ブリは標高 1,000m を超える山脈の峠を越え、海の魚を食べることが困難な地域にも運ばれていました」という発言から、**飛騨山脈を越えて輸送されていた**ことを想起したい。大問のはじめの地図にも**乗鞍岳**が高山市の東側に示されており、**飛騨山脈**を越えて東側に運ばれたと予想できる。岐阜県の東側に位置するのは長野県であるため松本が当てはまる。ちなみにこの峠というのは野麦峠であり、明治に鉄道が開通するまでは、北陸のブリは飛騨を経由して信州へと運ばれた。また高山市から名古屋へは飛騨川を南下すれば行くことができるため、途中に 1,000m を超える峠は存在しない。
- 以上より、カ - 域内、キ - 松本の組み合わせになる④が正解である。

問 4 33 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

読図の問題。地図中に答えが示されているので丁寧に見ていこう。

- ① 正 **上二之町**の南側には「丁」の形をした丁字路が存在する。
- ② 正 **七日町一丁目**付近の**宮川に上向きの矢印がある**ことが確認できる。地形図は断りのある場合を除いて上流が北であるため、宮川が南から北に流れているとわかる。
- ③ 正 **吹屋町**の東側には**天性寺町**や**宗猷寺町**などの寺に由来した地名が存在する。
- ④ 誤 **苔川**の西側には国道が並行していることは確認できるが、道路に面した工業団地は確認できない。

以上より、正解は④である。

問 5 34 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

図、表を読み取り、文章の正誤を判断する問題。数字が出てくるので、グラフのどこに注目すべきかを考えて解いていこう。

- ① 正 交通条件の改善によりアクセスは向上するが、旅行客数はアクセスのよさ以外にも流行や話題性などに左右されるため、交通条件の改善は旅行客数の維持を保証するものではない。
- ② 誤 図 4 を見ると高山市の日帰り客に対する宿泊客の割合は 2 分の 1 ほどである。一方、文章を読むと岐阜県全体の日帰り客数が 3,731 万人、宿泊客数が 629 万人であり、日帰り客に対する宿泊客の割合は 6 分の 1 ほどである。よって、**高山市は相対的に宿泊を伴う旅行者が多い**といえる。
- ③ 正 図 4 より高山市の宿泊客は約 130 万人であり、表 2 より高山市の外国人旅行者数は 26.8 万人である。よって、高山市の宿泊者数に占める外国人の割合は約 2 割と判断できる。
- ④ 正 表 2 を見ると、全国に比べ高山市のヨーロッパ、オセアニアの占める割合は高いことがわかる。

以上より、正解は②である。

問 6 35 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

写真から植生帯を判断する問題。それぞれの植生帯の特徴を考えながら写真を見ていこう。

- A 背の高い樹木が生えていない。図 5 を見ると、標高 2,500m に森林限界が存在していることがわかるので、A は高山帯であると判断できる。
- B ささまざまな樹種が複雑に生えていることが読み取れるため、広葉樹林であるとわかる。**広葉樹林は温暖なところに存在する**ため、選択肢の中で最も標高の低い山地帯に属する。
- C まっすぐな幹に細い葉を持つ枝が伸びている。これは針葉樹林であり、広葉樹林に比べ**寒さに強いことから亜高山帯に属する**と考えられる。

以上より、高山帯 - A、亜高山帯 - C、山地帯 - B の組み合わせになる②が正解である。

(藤田太郎, 上東菜弥)